

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき(絆)
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成28年8月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所に隣接して市の東浜公園があり、開放的でいつでも気軽に散歩ができ、利用者様の気分転換に繋がっている。また敷地内に観音像が建立されており、日々の参拝を通じて利用者様の心のよりどころとなっている。「うみかぜ」と合同で開催している「恵海まつり」と「めぐみカフェ」、「移動販売」等を通じて利用者様が地域の方とふれ合う機会を提供している。利用者様の真のニーズをを把握し「夢プラン」を実施する。ユニット活動、外出行事の充実を具体的な目標として掲げ、利用者様が「かがやき」で生き生きと自分らしく笑顔で楽しくゆっくり落ち着いて生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

今年6月から地域交流室で「認知症カフェ(めぐみカフェ)」をオープンさせており、職員が介護相談を受けている。チラシは、近所のお宅に持参したり、ポスティングしたりしており、又、当日の朝は、広報塔で一斉放送してくれる。
調査訪問時、利用者はジグソーパズルやゲーム感覚でできる文字練習を行っていた。間違えた時には、さりげなくヒントを出す等して楽しく行えるよう工夫している。調査訪問当日、「財布が無くなった」と言う利用者に、職員は「一緒に探しましょう」と言って支援していた。
月に1~2回はユニットごとにカレー、お好み焼き、焼きそば等を手作りしている。利用者がかかわりやすいように、居間のテーブルで電気鍋やホットプレートを使用し調理している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかがやき

(ユニット名) 絆

記入者(管理者)

氏名 小笠原博子

評価完了日 平成 28 年 8 月 31 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔で、共に、いきいきと」をかがやきの理念として掲げ、ユニット内に掲示し常に理念が認識できるようにしている。また、職員は理念を頭に入れてケアに努め、共に楽しく生活ができるように努めている。 (外部評価) 理念は、ユニット内の廊下や居間の目に付きやすい場所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所として地域の自治会に加入し、地域の一員として地域行事(運動会、夏祭り、文化祭等)に参加し利用者と共に楽しんでいる。6月に事業所開催の「恵海祭り」は地域の方にとっても恒例の行事として定着し、地域の方と久しぶりに再会でき話こんでいる利用者もいた。 (外部評価) 毎月の自治会の会合には、法人の生活相談員が出席しており、事業所の様子を話したり、地域の情報を得て、地域の運動会、文化祭等、地域行事等、なるべく参加できるよう取り組んでいる。今年6月から地域交流室で「認知症カフェ(めぐみカフェ)」をオープンさせており、職員が介護相談を受けている。チラシは、近所のお宅に持参したり、ポスティングしたりしており、又、当日の朝は、広報塔で一斉放送してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 6月より事業所内で「めぐみカフェ」(認知症カフェ)をオープンした。認知症の人やその家族、地域住民、介護などの専門職などが集って交流したり、情報交換したり、相談があればアドバイス等を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者やサービスの実際は映像にて報告している。以前はこちらが報告したものを聞くだけで会議が終了していたが、最近は質問や意見が多くできるようになり、私たちのサービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 会議には、自治会長、民生委員、利用者、家族、市の職員の参加がある。パワーポイントを使って、行事の様子を報告しており、参加者からは、地域交流や地域清掃等について質問があったり、中には、「ボランティアで協力したい」等の発言もある。外部評価結果や目標達成計画内容についての報告も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には介護福祉課より1名職員が必ず参加していただいている。助言を受けたり事業所の取組みをアピールし協力をお願いしている。又、意見に対しては真摯に受け止め取り組む努力をしている。	
			(外部評価) 2ヶ月に一回、介護相談員の訪問があり、利用者から話を聞いてくれている。市社協主催の「生き生きフェスティバル」には、利用者の作品を展示し、当日は見学に行った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1回「うみかぜ」と合同にて身体拘束廃止委員会を開催し話し合っている。毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、身体拘束をしないケアの大切さの理解を促している。玄関は昼間は自由に出入りできるように施錠はしていない。他の身体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 2ヶ月に一回、法人で「身体拘束委員会」を開催しており、利用者の気になる行動や職員の気になる言葉がけ等について情報を共有し、話し合いを行っている。その内容は、ユニット会で報告したり、議事録を確認する等して、全職員で共有している。現在、早朝に出かけようとする利用者があり、短時間ではあるが鍵をかけることがあるが、アセスメント等に取り組みながら支援に工夫を重ねてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回「うみかぜ」と合同にて委員会を開催し、日常の職員の行動や言動が虐待になっていないが話し合っている。議事録にて全職員が認識できるようにしている。毎年1回全職員対象の勉強会・グループワーク等を実施しグレーゾーンを見過ごさないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修には積極的に参加し理解を深めている。利用者個々の状況に応じて、必要時には支援できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や解約時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、加算の変更により利用料金が増える場合は文書による通知と口頭で説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には毎回家族、利用者に参加して頂き意見、要望などを伺っている。定期的に面会に来られる家族が多く、その都度話し合いをするよう心がけている。2年に1回家族懇親会を実施し食事しながら、リラックスしてお話ができるように心がけている。 (外部評価) 「かがやき便り」を年3回発行し、家族に送付している。便りには写真をたくさん載せコメントを添えている。家族来訪時は、積極的に話しかけ、利用者の様子を報告して希望や要望等を聞いている。運動会、恵海祭り、敬老会等には、家族も参加できるよう案内している。年一回、法人全体で家族アンケートを取り、満足度や意見を聞き、結果や対応について家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			事業所内で実施している全体会・主任会(1回/月)、ユニット会(1回/2ヶ月)、人事考課面接(2回/年)、賞与支給月に管理者と面談を実施し職員の意見を聞き運営に反映させている。面接時には職員が発言しやすいように配慮している。	
			(外部評価)	
			ユニット会時には、業務や利用者のケア等について話し合いを行っており、欠席者は、口頭で伝達を受けたり、会議録を確認している。アンケートを取り、高ストレスと判定され本人から希望があれば、産業医のカウンセリングを受けることができる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年2回実施している人事考課は、年1回の昇給に反映している。手当等についても、本部主体で見直しを定期的に変更している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事業所内外の研修には積極的に参加している。報告会、必要時には伝達研修を実施している。各資格取得については所属長が勤務の便宜を図り、勤務しながら取得できている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会主催の相互研修・各種研修に参加し、同業者との交流や勉強の機会を生かしてサービスの向上に繋げている。また、近隣の他事業所とはお互いのイベントに参加したり、防災訓練時には協力体制を結んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居相談後、訪問し本人の困っていること不安なこと希望などを聞き、入居時に不安なく安心して生活して頂けるように配慮している。また、家族の協力も得ながら信頼関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、既往歴、家族の気持ちや要望を聞き、話し合いを実施している。入居後は面会時等に、職員から声掛けし、状況報告するなどして訪問しやすい雰囲気をつくるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居直前の生活状況をしっかり把握し、入所後の変化や他者との関係等も家族と一緒に想定し、情報を共有しポイントについては統一したケアを実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で利用者ができることを一緒に実施している。洗濯物干し・たたみ、ゴミだし、調理、食器洗い等負担にならないように配慮し暮らしを共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居前まで実施していた外食、外出、外泊、受診などは継続して家族と実施できるように支援していく。本人の希望を家族と協力して実現していきます。県外在住の家族は2ヶ月に1回帰省し、必ず利用者と外食に行かれ、楽しい時間を継続して築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 「夢プラン」として利用者ご本人の希望を叶える取り組みを行っている。ふるさと訪問や、家族の協力を得て本人希望の外食や外出等の取り組みを計画し実施している。 (外部評価) 年一回「夢プラン」として、利用者の夢を家族と一緒に叶えるような支援を行っている。花が好きな方で「まんのう公園」へ出かける計画を、娘さんと一緒に立てたケースがある。天候の関係で場所を替えて支援したが、利用者はたいへん喜んだようだ。利用者職員で特養へ移った方のところへ面会に行き、一緒に輪投げや散歩を楽しんで帰ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合うペアが2組できている。食事の席や活動時のメンバー等は気の合う利用者と一緒に実施できるように配慮している。他の利用者が孤立しないように職員が中に入って援助している。ユニット間の交流の機会をつくるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設のため「かがやき」を退所し、うみかぜに入所したり入院退所になったときは、面会にて相談や支援に努めている。在宅に変えられるケースはほとんどない。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マンツーマンでの会話の機会を増やし本音を言える場面をつくる。気づきノートを作成し、情報の共用に努めたがあまり活用できていない。「夢プラン」を進めている時は、利用者、職員共に充実感がある。 (外部評価) 入居時、本人や家族から聞き取りを行っている。日々の会話の中からも希望や意向を聞いている。利用者の思いや希望、意向等を把握するために、気づきノートをつくったが、記録の重複等の課題もあり、現在は活用できていない。	管理者と計画作成担当者は、「定期的なアセスメントシートの見直しを行いたい」と考えている。気づきシートのあり方についても、「介護記録との一体化を検討したい」と話していた。利用者の情報を蓄積し、職員で共有できるような記録の工夫が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に生活歴等を確認し、サービスを利用するようになった経緯や利用中の様子などを家族や居宅ケアマネから情報を収集している。全員女性なので、それぞれの得意な家事を一緒にしていただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別のケース記録を元に日々の申し送りを実施し、心身状態の把握に努めるようにしている。一人ひとりの力量に合わせて、生活の中でできることを一緒にしている。自立している方は、自らできることをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>担当者が利用者のアセスメントを行い、本人や家族の希望などを聞き取り、朝の申し送りやユニット会等で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。2ヶ月毎のユニット会にてモニタリングを行い情報を共有し、利用者様が安心して生活できるように努めている。「夢プラン」を計画に取り入れて援助している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時は、生活場面での目標を挙げて一ヶ月間の計画を立てている。担当職員は、毎月「生活健康表」でモニタリングを行い、2ヶ月に一回職員で話し合っ6ヶ月ごとの見直しにつなげている。日々の介護記録は、計画内容の番号を記入して記録している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>個別のケースには日々の様子を詳細に記録し、健康表には食事、水分量、排泄の状況が一目でわかるように記録している。申し送りを密に行い情報を共有し、統一したケアができるように努めている。ケアプラン作成には有効に活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>新規入所の利用者が帰宅願望が強いため、個々のサービス提供に隔たりが出てきているが、すでに安定した生活を送っている方には、不安が出ないように気配りをしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1回の介護相談員の訪問、月1回の売店、週2回のパンの販売、月1回の移動販売、2ヶ月に1回の訪問理美容を実施し、ほとんどの利用者が活用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の健康状態について気になることがあれば看護職員に相談している。必要時には家族と主治医に連絡をとっている。精神面については、家族と相談し必要な方のみ精神科Drの往診日に、生活状態を含めて診ていただき、適切な医療を受けている。</p> <p>(外部評価) 受診は家族に付き添いをお願いしているが、遠方の家族等、都合によっては職員が同行して支援している。看護職員が日々の健康管理を行っている。精神科の協力医の往診が月2回あり、安定剤や入眠剤等の増減は医師と相談しながら支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の身体・精神面の気づきや、急変時には看護師に報告し指示を得るなどの連携を図っている。夜間や休日等は必要に応じてオンコール体制を整えている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時事業所から医療機関へ生活の様子を報告している。入院中も定期的に面会し、病状を聞いたり家族と情報交換している。特に病院のソーシャルワーカーとは細目に連携を図っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期については入居契約時に説明し、尚必要時は主治医との連携を密にし、家族の面会時に本人の意向に添えるよう話し合っている。年1回うみかぜ合同の「看取り」の事業所内勉強会を実施。外部研修の報告内容も共有している。家族と話し合い主治医との協力体制について確認し、今後スムーズに取り組めるようにしている。</p> <p>(外部評価) これまでに事業所での看取り支援の経験はない。入居時には、「看取りに関する指針」を説明し、状態変化時には、具体的に話し合うが、家族は、特養等の他介護施設を申し込んだり、病院を希望するようだ。現在、利用者1名の方は、在宅ケア専門医が主治医となっており、事業所で最期まで暮らすことを希望している。管理者は勉強会を行い、看護職と相談しながら希望に沿った支援を行いたいと話していた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			職員が落ち着いて応急手当や初期対応ができるように、定期的にAEDを使用した勉強会を継続すると共に、今後も新人職員優先に外部研修への参加をしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回うみかぜと合同の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。近隣のグループホームと相互の協力体制を築いている。備蓄品も準備している。緊急連絡網は都度見直しを実施し、抜き打ちで連絡網が機能しているか確認している。H27年11月に事業所と近隣の消防団との訓練を実施し協力体制を再度依頼した。	
			(外部評価)	
			年2回、消防署の協力を得て併設事業所と合同で避難訓練を行っている。日中、夜間の火災想定で訓練を行ったり、水害想定で2階へ避難する訓練を行ったりしている。運営推進会議時には、防災についての講習会を行い保存食を試食した。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者同志のトラブルが起きないように、一人ひとりのこだわりや生活習慣などを考慮し援助するようにしている。利用者のその時の状態に合わせて、共同生活室の座席の変更や居室からの誘導など配慮している。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、利用者はジグソーパズルやゲーム感覚でできる文字練習を行っていた。間違えた時には、さりげなくヒントを出す等して楽しく行えるよう工夫している。調査訪問当日、「財布が無くなった」と言う利用者に、職員は「一緒に探しましょう」と言って支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			選択食やモーニングバイキング、移動販売、売店、カフェ等の場を提供したり、スーパーに買い物に同行し必要なものを購入できるよう、自己決定できる場を提供している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の身体面のレベルや趣味に合わせて、ゲーム・作品作り・園芸等状況に応じて外出をする時もある。居室で新聞を読んだり、テレビを見て過ごす等している。帰宅願望の方に対しては心地よい居場所づくりをしていきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝4名の利用者が自分で選んだ衣類を着用している。外出時にはお気に入りの帽子や上着等を使用し、バッグも持参している。髪をブラッシングする時は鏡の前で実施して頂くように心がけている。事業所内では老人車を使用しているが、外出時は杖を使用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛り付けのみではなく、メニューがカレー、肉じゃが、きんぴらなどは野菜の皮むきから、煮込み、味付け、完成、片づけまでの一連をユニットでしている。昔からの慣れた手つきで実施できている。小麦粉アレルギーの利用者には代替えを用意し、ユニット調理の時には特に配慮している。	
			(外部評価) 主食は事業所で作り、副食は厨房から届き、事業所で盛り付け配膳を行っている。法人で2ヶ月に1回、給食委員会があり、利用者の希望や要望を伝えている。湯飲みや茶碗は利用者の好みの物を使っている。食後、利用者は、食器洗いや、食器拭き、テーブル拭きを行っていた。月に1~2回はユニットごとにカレー、お好み焼き、焼きそば等を手作りしている。利用者がかかわりやすいように、居間のテーブルで電気鍋やホットプレートを使用し調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事、おやつを提供している。摂取量については個別の健康表にて把握している。水分量については健康表で1日の摂取量をチェックしている。好みの飲み物を準備し、細目に提供し摂取を促している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けし口腔ケアを実施している。自力、一部介助、全介助と様々であるが、利用者に応じた援助を実施している。義歯は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>できるだけトイレで排泄できるように、各利用者のリズムを把握し定期的に誘導している。季節などにより尿量も違うので声掛けの時間を変えるようにしている。昼間のみ尿とりパットをはずす利用者を共有し援助する。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄状況を記録してパターンを把握し、声かけや誘導を行い支援している。トイレのドアに「トイレ」と大きく書いて貼っており、トイレの場所が分かりやすいようにしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>下剤服用者もいるが、できる限り散歩等にて運動したり、水分摂取にて自然排便できるように努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者にとって入浴が楽しく、心地よいことなるように支援し、決して強制しないようにしている。一人ひとりの希望に合わせて入浴を提供したいが、基本的に午後に入るように一日の流れはできている。入浴表を使用し、入浴日を固定せず3以上間隔が開かないように声掛けしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴表を見ながら1日に3名ずつ、午後から入浴支援を行っている。長湯が好みの方、熱めのお湯が好みの方等、それぞれに応じて支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>昼夜逆転にならないよう日中活動を多くしている。夜間不眠の時には短時間の昼寝を促し身体が休息できるように配慮している。起床や入眠時間については希望にあわせて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬中の薬については、薬の説明書をケースに入れ、スタッフが内容や副作用について理解できるようにしている。変更時には必ず申し送り、状態観察を行うようにしている。誤薬防止のため薬箱の工夫やダブルチェックをする体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ユニット会やミニカンファレンス等で、個別の生きがいとなる支援を話し合い実践している。日常的、非日常的なことを合わせて提供するようにしている。家事、生け花、手芸、パズルなど進めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月間の外出、ユニット活動計画をたてて、外出する機会を多くできるように努めている。事業所の庭に観音像があり、毎日の参拝が日課となっており、戸外の空気を吸う機会になっている。隣接している公園も自由に使用できるため、散歩などに活用している。又日帰り旅行を計画中。	
			(外部評価) 敷地内を散歩したり、気候の良い時期には近所の公園から海岸辺りまで足を延ばすこともある。外出行事として、季節ごとに芍薬、バラ、紅葉等を楽しみにドライブに出かけている。利用者は「気分が変わってよかった」と喜ばれるようだ。	地域の中に、ちょっと出かけて行けるような場所を開拓してみてもどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は事業所の方で家族からの預かり金を管理している。本人から使用したいとの要望が会った時は使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の使用はいつでもできることを伝えている。依頼のあった時には、早く対応し取次をしている。絵手紙や年賀状の作成時には、家族に投函できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関・居間は和の雰囲気があり、ユニット間を自由に行けるようになっている。共同生活室や談話コーナーにはソファ等を配置しゆっくりくつろげるように配慮している。壁には季節の作品を創って飾り季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関を入るとケース入り日本人形や兜が飾っており、囲炉裏がある。家族が庭から摘んできてくれたお花を、利用者が廊下や洗面台に活けていた。居間の壁には、コスモスやお月見のちぎり絵の作品を飾っていた。談話コーナーには、テレビとソファがあり、静かにテレビを見たい方が利用している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共同生活室のテーブルの配置はその都度変え利用者が穏やかに過ごせるよう配慮している。他に談話コーナーや畳のスペースも確保している。ユニットから出て玄関にはちよっと座れる「いろり」がある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の生活習慣や状態により、和室を使用している方あり、できるだけ馴染みのある家具を持ってきていただいている。認知の低下によって環境整備を行い事故がないように配慮している。ソファを置いたりや3名の方が仏壇を居室に配置し、お参りしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニットごとに畳敷きの居室が2部屋あり、自宅での生活環境や身体状況に応じて利用している。テレビや仏壇を持ち込んだり、家族写真を飾っているところもあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>展示物は利用者から見やすい位置に置き、トイレや表札等を大きく表示することによって、迷わず自力で使用することができている。</p>	